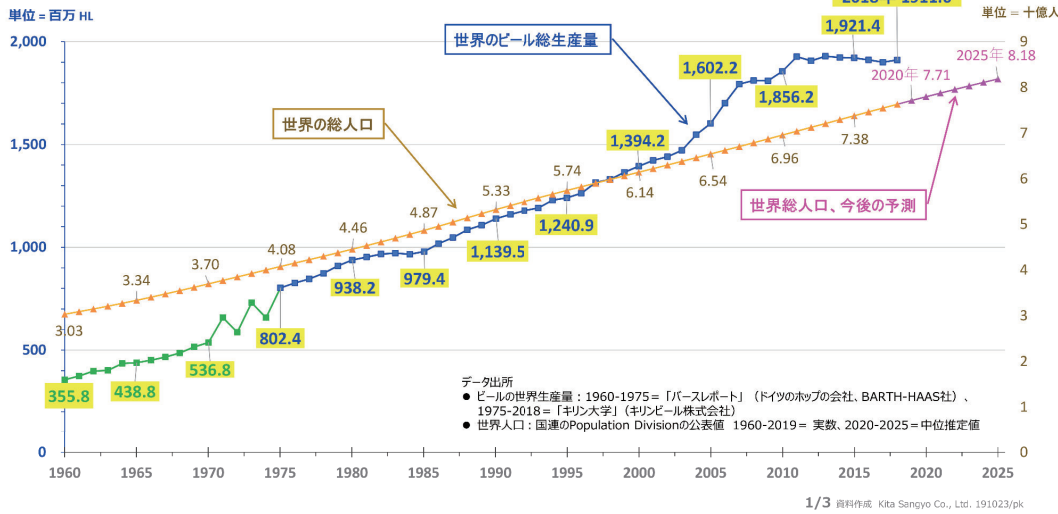


ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料でご紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。

今回は、「世界のビール産業と、クラフトビールの状況」をご紹介します。

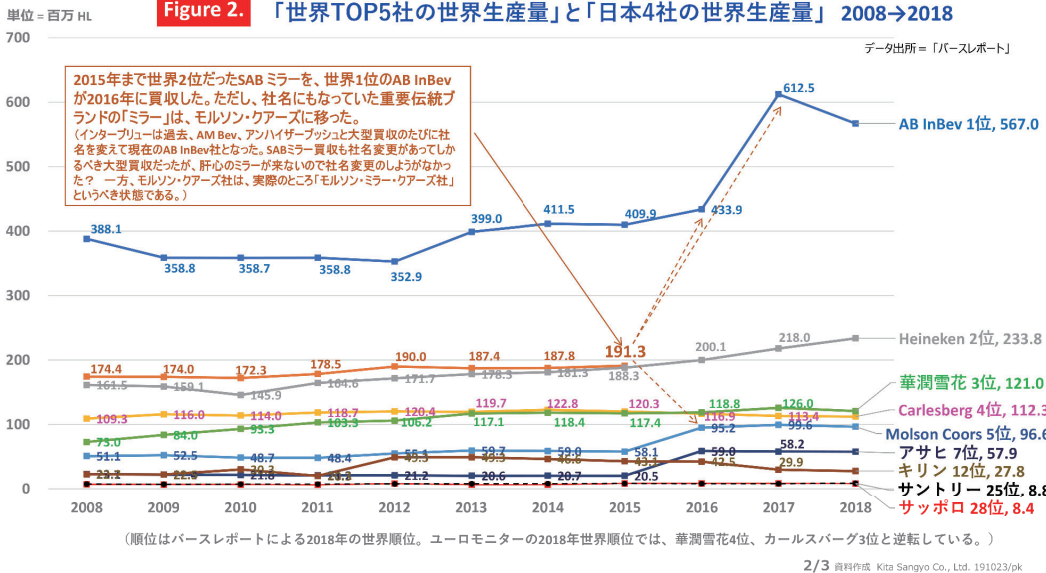
Figure 1. 「世界のビール総生産量」と「世界人口」 1960→2018→2025



■ **Figure 1.** ビールの世界生産量は2010年頃まで半世紀以上伸び続けたが、グラフで分かる通り2010年代に停滞期に入った。世界人口は2010年以降も従来と同じ傾向で伸びているにもかかわらず、ビールは頭打ちとなった。人口増の主因がアジアからアフリカに移ったことが関係するのかもしれない。2020年以降も人口増が続くが、ビール需要との相関は薄れていく。

■ ビール世界生産量は、公表機関によって異なる。2018年の数字は、キリン大学:1,911mil. HL「5年ぶりに増加」、バースレポート:1,904.6mil. HL「2年連続減少」、ユーロモニター:1,974mil. HL(販売量)「前年比1.8%増加」。

Figure 2. 「世界TOP5社の世界生産量」と「日本4社の世界生産量」 2008→2018

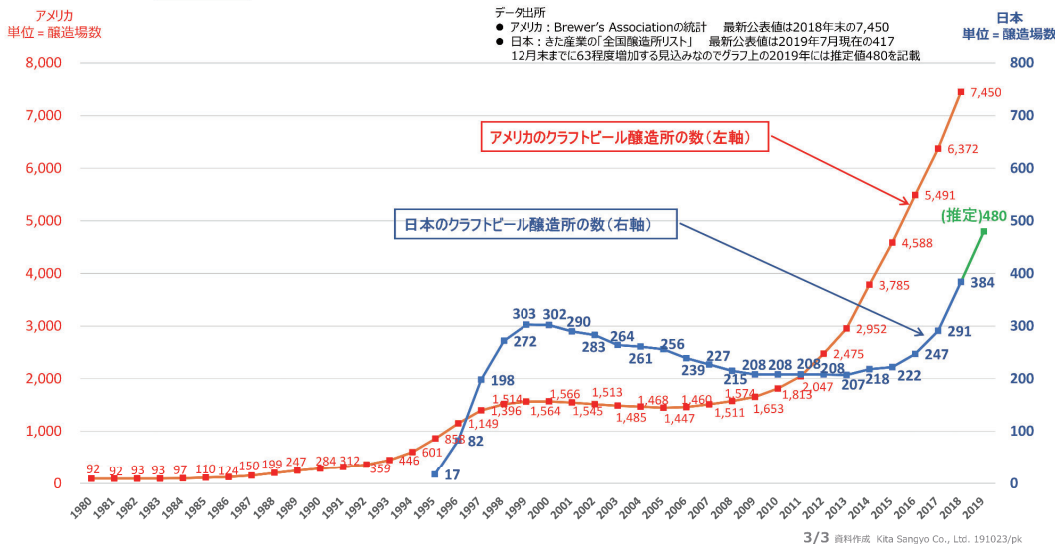


■ **Figure 2.** 1990年代以降、「グローバルシェアを取るためのM&A」が、世界のトップ企業のビジネスモデルになった。2016年、AB InBevはSABミラーを買収、一部は再売却したが最終的に約150mil. HL(日本の全消費量の約3倍!)を上乗せし、世界シェア約3割となった。ただし、SABミラーの持ち分のうち、アメリカのミラー・クアーズ社のミラー分約40mil. HLは買い取ったモルソン・クアーズに上乗せされた。

■ Fig.2を見ると、日本4社と世界トップブランドの差の大きさがよくわかる。ただしこの数字はバースレポートによる。株式保有会社分のビール生産量の扱い方や、委託・受託分の扱い方によって、数字は相当変わってくる。

■ アサヒの数字は、2015年まではほぼ国内分のみ。2016年から2017年にグローバルシュ、ペローニ、ウルケルなど欧州ブランドを買収して一気に海外生産量が約40mil. HLまで増えた。2020年にはオーストラリアでシェアトップのCUBも買収すると報じられている。

Figure 3. クラフトビール醸造所数の推移、「アメリカ」と「日本」 1980→2018→2019



■ **Figure 3.** 日本が地ビールを解禁した1995年頃から、世界的にもクラフトビールの胎動が始まった。アメリカと日本ではスケールは違うが、「1995年頃から5年ほど急成長」→「2000年ごろから10年ほど停滞期」→「この5年ほど再度急成長」というパターンは同じである。ただ、日米には3年ほどの時差があることも読み取れる。

■ 2020年以降のクラフトビールはどうなるのか。経済では「繰り返す」パターンはよくある。「5年成長と10年停滞が繰り返す」過去のパターンで行くと、「2020年ごろから、そろそろ停滞期」になるのかもしれない。一方、「大量生産品に満足しない需要層・生産者」はますます増えている。とすれば「クラフトの潮流」はさらに拡大するのかもしれない。

(text = t.kita)